



## 古賀元帥を中心とした 有田の様相



←古賀元帥搭乗と同型機



古賀峯一元帥

このたび8月1日より31日まで「国を想い戦に殉ず～古賀元帥を中心とした有田の様相～」展を開催したところ多くの方々にご観覧いただきありがとうございました。

開催にあたり、諸隈武様、九州陶磁文化館をはじめ町内外の皆様よりご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

ます。

陶山神社境内に古賀元帥顕彰碑をはじめ、昭和27年8月に再建された「忠魂碑」があります。戦死された295名のお名前が掲示されていますが、6～10区を含めると500名は優に越すと思います。更に原爆で尊い命を失われました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

古賀元帥は明治18年9月に有田・泉山で生まれ明治39年海軍兵学校、大正6年海軍大学校卒業後に少佐となり、大正9年から2年間フランスに駐在、帰国後は海軍大学教官続いて連合艦隊首席参謀となります。大正15年再度フランス大使付武官として渡欧し昭和2年のジュネーブ軍縮会議に出席します。その後戦艦「伊勢」艦長、支那方面艦隊指令長官として仏印ヴェトナム進駐、昭和17年海軍大将に任ぜられます。

日独伊三国同盟締結のとき米内光政－山本五十六－井上成美ラインの反対派に属し日米開戦に懸念を表明していました。

ミッドウェー海戦で日本が敗退してより、形勢は逆転します。昭和18年4月18日ブーケンビル島上空で米軍の暗号解読により山本五十六元帥が戦死をし、後任として古賀大将が連合艦隊司令長官に就任します。

それまで古賀大将の歩んだ道は、支那方面・ヴェトナム進駐それに支那方面にいた米英の砲艦や特務艦など補助的なものが対象でした。これに対し山本長官はミッドウェー海戦の敗退をきっかけにアメリカ空軍の反攻となり航空消

耗戦に直面し、日米の資源、工業力、技術力の差の大きさを懸念していたのでした。このように戦局困難なときに古賀大将が連合艦隊司令長官に着任したのです。

昭和19年3月31日午後、福留参謀長が「司令部は、今夜、飛行艇でパラオからダバオに移動する」と発言します。

古賀司令長官の搭乗した一番機が夜10時西へ向かって離水、続いて二番機が夜空へ向かって上昇します。二番機は密雲に突入し激しい雷雨に遭い、二時間後にセブ島沖に不時着水します。一方古賀司令長官搭乗の一号機は通信途絶、行方不明となり、4月22日に「殉死」と発表されました。

## インドネシア独立に尽くした 瀬戸口中尉



瀬戸口文次郎工兵隊中隊長

現在、有田町収入役・宮田章一郎さんの実兄に陸軍中尉・瀬戸口文次郎工兵隊中隊長がおられました。瀬戸口さんは有田小学校から武雄中学へ、そして広島陸軍幼年学校を経て、陸軍士官学校を昭和19年4月20日に卒業後、南方ジャワ方面チモール島にて戦争中に終戦となります。そして現地の捕虜収容所に收容されるのですが、收容所にいる同志で「自分達はアジア民族解放のため、これまで戦ってきたではないか、それならば早速行動を起すべし」と昭和21年1月收容所を上陸用舟艇にて脱走しインドネシア独立軍に参加します。ジャワはもともとオランダ領で再度植民地化を目論んでいました。現地の人々は戦前オランダより抑圧されていたことから、すごい反撲心を持っていました。現地人により武器庫を破壊し瀬戸口中尉らが独立の手助けを行います。このようにしてインドネシア独立軍は立ち上がり「独立国家」を樹立します。

瀬戸口元中尉はカンゲアン島にて独立軍と共にオランダ軍と戦争中に戦死します。23歳でした。

瀬戸口元中尉はカンゲアン島にて独立軍と共にオランダ軍と戦争中に戦死します。23歳でした。

# 皿 季刊 山 秋 No.59



# 終戦に向けて命をかけた 鈴木貫太郎首相

昭和16年12月8日、大東亜戦争が始まりました。戦争をする双方の国は「正義は自分の方にある。不正義は相手側にある」と政治プロパガンダ（宣言）をぶつけあいました。

そのとき日本国が主張したのは「経済封鎖で、日本を圧殺しようとする欧米列強から日本を守ること」でした。それと共に「欧米列強の植民地支配からアジアを開放するため」でありました。

これに対し、アメリカを始めとする連合国の主張は「われわれが大事にしている民主主義を脅かすファシズム国家・日本を打ち倒すため」というものでした。それと共に「宣戦布告なしで真珠湾攻撃するのは、だまし討ちだ」とののしったのです。

このように、お互いが自国民に向けて宣伝をしたのであります。

日本軍は開戦3ヵ月後の昭和17年2月には、山下奉文司令官によりシンガポールを陥落させましたが、これはマレー人が長年の支配者であったイギリス人を憎み、日本の軍人を好意的に迎えたからです。

一方、オランダの植民地となっていたインドネシアも昭和17年3月に今村均司令官により、9日間で全土を制圧します。これもオランダ人により農耕地を取り上げられ、ゴム・コーヒー園で強制労働させられたうえに、現地人は飢饉に見舞われていたことへの反動であったのです。更に日本軍は独立運動指導者スカルノを救出します。

このようにして、日本軍はフィリピン、ベトナム、ビルマと攻めて行きます。

昭和20年8月15日、日本軍は降伏しますが、植民地化を進めてきた欧米諸国に対し、大東亜戦争をきっかけに独立心に燃えたアジアの諸民族は、終戦と共に立ち上がりインド、パキスタン、カンボジアを含め、次々に独立していきます。

話は若干戻りますが日本軍は昭和17年（1942）6月ミッドウェー海戦で航空母艦の大半を失います。戦況は日本軍に不利となりました。そして昭和19年には完全に制空権・制海権ともアメリカ軍が掌握してしまい、昭和20年（1945）3月10日東京下町を襲った空襲で、東京市民10万人の命を奪いました。これは、まさしく米軍に

よる国際法違反の犯罪行為でありました。このような状況は、最近のイラク戦争でも見るができます。

昭和20年4月、鈴木貫太郎内閣が成立します。鈴木首相は本土決戦を唱えながら、ひそかに戦争終結を図ろうとします。5月にドイツ国が無条件降伏をします。7月に日本の降伏を条件に示した「ポツダム宣言」を発表します。8月6日広島市、9日長崎市に原子爆弾を投下、罪のない何十万人という人々が一瞬のうちに虐殺されました。そして8日ソ連が日ソ中立条約を一方的に破り、満州、北朝鮮、樺太へ侵入します。

## ポツダム宣言の受諾

8月9日、鈴木貫太郎首相は最高戦争指導者会議を開きます。会議の冒頭、鈴木首相は「情勢から見てポツダム宣言を受諾せざるを得ないので、みんなの意見を聞きたい」と述べます。

しばらくして米内海相が（甲案）「国体の護持を唯一の条件として、ただちにポツダム宣言を受諾するか」（乙案）「その他の条件をつけて受諾するか」の2つの方法しかないと発言します。この会議中に長崎市に新型爆弾が投下されたと知らせがはいります。

甲案を主張したのが鈴木首相、東郷外相、米内海相で、乙案を主張したのが阿南陸相、梅津陸軍参謀総長、豊田海軍軍令部総長でした。乙案の内容は事実上戦争を継続する意味の内容でした。

激しい対立のあと、会議をいったん閉会します。同じ9日深夜「御前会議」が再会されます。前述の6人構成に平沼枢密院議長が加わりました。なぜなら鈴木首相は、この会議の采配をふる立場にあったからです。

午前2時を回ったとき、議長として中立の位置にあった鈴木首相は「議を尽くすこと長時間に涉り、3対3のまままで議決に至ってない」と発言します。

いつのまにか平沼議長は、甲案（ポツダム宣言受諾）賛成者になっていたのです。出席者は「ハッ！」とします。阿南陸相が発言を求めますが、鈴木首相はそれを無視します。そして「かくなる上は、はなはだ恐れ多いことながら陛下の御聖断を仰ぐしかありませぬ」と言って、陛下の前へ進み出ます。

陛下は「戦争をこれ以上続けることは、国民の悲惨さを増大させるだけである。したがって直ちにポツダム宣言を受諾すべし」と陛下ご自身で仰せになりました。



鈴木首相は直ちに閣僚を招集し、閣議で承認されました。それは8月10日午前4時のことでした。

ここで大事なことは、天皇御自ら御意見を発露されたという形にもっていったということです。それだけ鈴木首相には冷静沈着さがあり、結果的には日本軍の反乱が起らず終戦を迎えることになりました。

## 大東亜戦争と有田焼

「有田町史」を紐解き大東亜戦争のとき有田焼はどういうかわりを持ったか調べました。

昭和17年5月政府は金属回収令を出し、鉄・銅などを強制的に供出させることにしました。各家庭にある釜、タンスの引き手まで供出しました。

昭和17年5月、その頃有田に協和新興陶磁器有限公司があり、専務の清水時一さんが磁器爆弾の特許を個人で所有していました。(清水さんは香蘭社。山本製陶(現・華山)竹重タイルなど歴任・戦後は町議会議員)

昭和18年9月、清水さんは有田焼を利用して毒ガス弾・手榴弾・地雷・戦車用の目つぶし弾・迫撃砲に使う雷管を試作します。それだけ日本国内は金属が逼迫していたのです。

昭和18年12月防衛食器の生産開始

昭和19年7月日本兵器窯業(株)代表清水時一氏設立、磁器爆弾の製作に着手しました。

(その一つを有田町歴史民俗資料館で展示中)、ここで陶製手榴弾の生産にふみきります。(実戦では使用していない)

昭和19年10月、有田・瀬戸・京都にて陶貨を作ることが決まります。実はこれには先進国がありました。大正11年(1922)第1次世界大戦後のドイツで超インフレとなり、陶磁器製の陶貨が発行されていたのです。これを見本にして陶貨を作ることになったのです。

昭和20年2月15日大蔵省大阪造幣局有田出張所が協和新興陶磁器(株)内に設置されます。当時の社長さんは竹重米雄さん(84歳)、支配人は篠原英男さん(故人)で造幣局の囑託として発令されました。竹重社長ほかスタッフは2月20日に日産300万枚の製造計画書を造幣局へ提出し、製造に着手します。そして4月1日に発行予定であったのが間に合わず更に6月1日に発行延期したのもにかかわらず間に合いませんでした。理由は量産用機械メーカーが空襲にあい納入できなかったからです。と

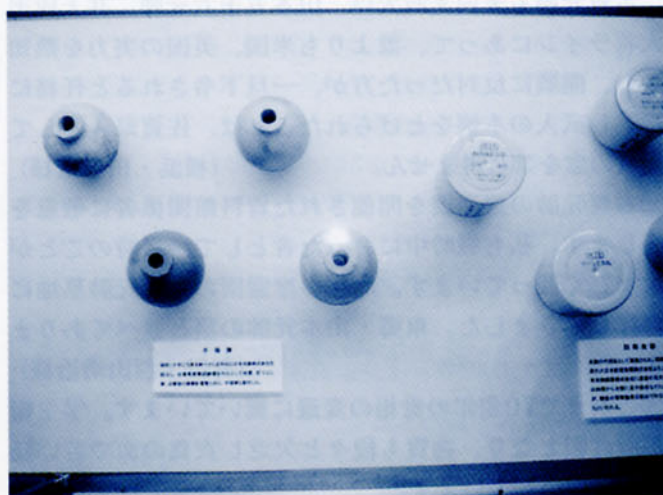
うとう日の目を見ず1~10銭は紙幣のままでした。

8月14日ポツダム宣言受諾

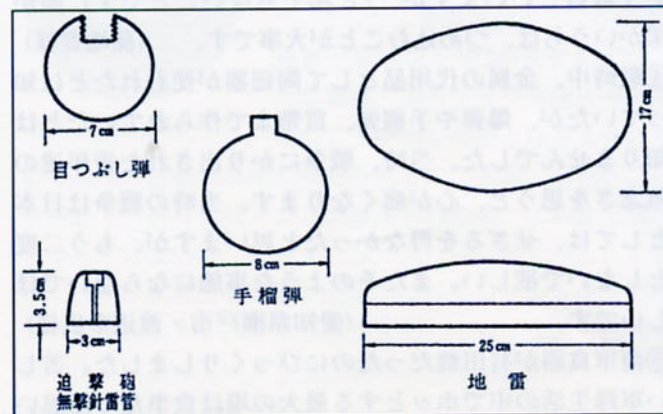
8月19日陶貨製造中止。米軍が進駐する前に、すべてを破棄するよう命令が出されます。

このように戦争中の有田は、陶磁器による防衛食器・爆弾・陶貨と関わりのある時代でした。

(久富桃太郎)



陶製手榴弾(左)と防衛食器(右)



清水さんが陶磁器で作った兵器の図面

## 古賀元帥顕彰碑の建立に当って

顕彰碑は昭和55年5月に陶山神社境内に建立されました。当時、志岐常雄東亜工機社長・碓壯次東興賀町長、永倉三郎佐電工社長を中心に全国から募金をつのり、それに古賀寛氏、諸隈武氏等のご協力によるものです。

完成後、作家の江藤淳氏と豊田穰氏による「佐賀と海軍について」講演がありました。

(佐賀・渡邊尚次様)



## 「企画展」に寄せられた言葉

今回の企画展には、地元は勿論・東京、瀬戸、広島、八代と多方面からご観覧いただきました。

企画展に寄せられた言葉を紹介します。

①有田町歴史民俗資料館に古賀元帥ゆかりの品が展示されたとのこと、佐中後輩として、この上ない喜びです。早速同窓会へ連絡し、この喜びを分かち合いたい。

古賀元帥も米内光政大臣、山本五十六元帥、井上成美大將ラインにあって、誰よりも米国、英国の実力を熟知され、開戦に反対だった方が、一旦下令されると任務に邁進し武人の本懐をとげられたことは、佐賀県人として畏敬の念を禁じ得ません。(横浜・田中宏様)

②古賀元帥の遺品展を開催された資料館関係者に敬意を表します。私も戦時中に育った者として、当時のことが生々しく残っています。昨年多摩霊園の古賀元帥墓地に参拝してきました。東郷・山本元帥の墓と並べてあります。(有田・西山清治様)

③これまで70余年の世相の変遷に驚いています。学生帽が戦闘帽となり、物資も段々と欠乏し衣食の面で苦い経験を憶い出しています。

古賀元帥の弟さんへの手紙を念を入れて見ました。私も海兵78期生で全て毛筆で書かされ苦勞しました。今ユトリ教育といいますが、「とんでもないことです」頭が柔かいうちは、つめ込むことが大事です。(蒲地豊様)

④戦時中、金属の代用品として陶磁器が使われたとは知っていたが、爆弾や手榴弾、貨幣まで作られていたとは知りませんでした。当時、戦争にかり出された青年達の無念さを思うと、心が痛くなります。当時の戦争は日本としては、せざるを得なかったと思いますが、もう二度としないで欲しい。またそのような事態にならないでほしいです。(愛知県瀬戸市・渡辺幸広様)

⑤海軍食器が有田焼だったのにびっくりしました。苦しい軍隊生活の中でホッとする最大のは食事だったと思います。その中で優しい手ざわりのやきものと花模様が兵隊さんの心になごやかな雰囲気をかもしたと思い、思わず涙が出ました。(奈良・志垣薫様)

⑥旅の途中、企画展を見て、古賀元帥のような立派な方がいらっしゃることを初めて知りまりました。資料館で有田の歴史が勉強になりました。(奈良・生駒生)

⑦有田に住いをかまえて5ヶ月になります。すぐ近くに古賀長官の生家があり、びっくりしました。産業は時代により戦争に結びつくのが分ります。

(有田・宮原嘉行様)

⑧戦史により古賀元帥の殉死は知っていましたが、有田で生まれ、海軍兵学校に進学されたことを初めて知りました。元帥につき学ばせていただき有難うございました。

(西有田・森猛美様)



古賀元帥の墓前にて

⑨何故、有田がやきものの町として発展したかの疑問が企画展で解けました。一人や二人の優秀な作家より町全体での協力や思いが発展につながっていると思いました。今後も誰でも分かりやすい説明と企画展を期待します。

(東京都西東京市・一参観者)

⑩はじめて資料館へ来て、有田焼の歴史を見ると共に偶然この企画展を見ました。8月15日を前にして戦争の恐さを感じます。いま世界が戦争を悪いことにとらえていないのが恐いです。平和の尊さを嘯み締めました。

(熊本県八代市・山内栄子様)



58回目の終戦記念日を迎えました。

戦時中を経験した方には色々の思いがあります。もう9月ですから半月経過しました。今回の季刊「皿山」では企画展「国を想い戦に殉ず」を中心に特集号としました。私も戦争末期「人間魚雷・回天」の工場建設にたずさわって、グラマン機が土ぼこりをあげて機銃掃射してきたのを何度か経験しました。また伊商進学の同級生は原爆に遭い尊い命を失くしました。

戦争ほど人間を不幸にするものはありません。戦争を起さないためにも「政治家」に求められることは、人間性豊かであること。先見の明があること、物のあわれを知る心をもっていること、世の醋(から)いも甘いも知る苦勞人であることでしょう。私心がなく、人の言葉を心底理解する素質が政治家に求められます。

(久富桃太郎)

## 季刊『皿山』

通巻59号 (平成15年9月1日)  
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1  
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185